

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月12日
【四半期会計期間】	第96期第2四半期（自平成27年7月1日至平成27年9月30日）
【会社名】	C K D株式会社
【英訳名】	C K D Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 梶本 一典
【本店の所在の場所】	愛知県小牧市応時二丁目250番地
【電話番号】	(0568) 77 - 1111 大代表
【事務連絡者氏名】	経理部長 舟橋 典孝
【最寄りの連絡場所】	東京都港区浜松町一丁目31番1号（文化放送メディアプラス） C K D株式会社東京支店
【電話番号】	(03) 5402 - 3620 代表
【事務連絡者氏名】	執行役員営業本部副本部長兼東京支店長 市村 理明
【縦覧に供する場所】	C K D株式会社東京支店 （東京都港区浜松町一丁目31番1号（文化放送メディアプラス）） C K D株式会社大阪支店 （大阪市西区土佐堀一丁目3番20号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第95期 第2四半期 連結累計期間	第96期 第2四半期 連結累計期間	第95期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (百万円)	39,991	45,160	83,379
経常利益 (百万円)	3,488	4,243	8,735
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,223	2,924	6,010
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,054	1,880	9,104
純資産額 (百万円)	59,194	65,916	65,555
総資産額 (百万円)	85,405	95,057	96,018
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	35.61	47.07	96.25
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.3	69.3	68.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,292	5,246	6,226
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,293	2,315	4,755
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,198	2,042	618
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	9,571	12,924	12,290

回次	第95期 第2四半期 連結会計期間	第96期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	18.47	21.53

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費に加え、円安と原油安による企業業績の回復が期待されました。しかし後半には中国の経済成長に陰りが出たため、低い成長にとどまりました。

海外経済は、高い成長が続いた中国経済の減速が、アジア全体に影響いたしました。一方、米国では引き続き雇用と所得が改善したため、緩やかながらも成長いたしました。

このような状況のもとで、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高45,160百万円（前年同四半期比12.9%増）、損益面では、営業利益4,312百万円（前年同四半期比25.6%増）、経常利益4,243百万円（前年同四半期比21.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,924百万円（前年同四半期比31.5%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### 自動機械部門

主力商品の薬品自動包装システムは、政府のジェネリック医薬品普及促進に伴う設備投資により、売上が増加いたしました。

また、三次元はんだ印刷検査機は、電子化が進む車載用基板向けと情報通信機器向けの売上が増加いたしました。一方、リチウムイオン電池製造システムは、期待された中国の環境対応車用の設備投資が見送られ、売上は減少いたしました。

その結果、売上高は7,646百万円（前年同四半期比2.3%増）、セグメント利益は1,136百万円（前年同四半期比47.6%増）となりました。

#### 機器部門

国内市場では、微細化への投資が進む半導体製造装置向け、環境対応や電子化が広がる自動車業界向け、中国で工場新設を伴う設備投資が活発化しているF P D製造装置向けなどの売上が増加いたしました。

海外市場では、東アジアは韓国と台湾で半導体製造装置向け、東南アジアは昨年新たに現地法人を立ち上げたインドネシアとベトナムの売上が増加いたしました。米国と欧州でも、半導体製造装置向けと自動車業界向けの売上が増加いたしました。

その結果、売上高は37,514百万円（前年同四半期比15.4%増）、セグメント利益は4,675百万円（前年同四半期比17.9%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は、前連結会計年度末に比べ634百万円増加の12,924百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、獲得した資金は5,246百万円（前年同四半期比59.4%増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益4,300百万円、減価償却費1,963百万円、賞与引当金の増加1,916百万円、売上債権の減少1,595百万円による資金の増加、未払賞与の減少1,804百万円、たな卸資産の増加721百万円、仕入債務の減少996百万円、法人税等の支払額664百万円による資金の減少によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、使用した資金は2,315百万円（前年同四半期比1.0%増）となりました。これは主に、有価証券の減少額1,499百万円による資金の増加、有形固定資産の取得による支出3,730百万円による資金の減少によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、使用した資金は2,042百万円（前年同四半期比70.4%増）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出385百万円、自己株式の取得による支出700百万円、配当金の支払額810百万円による資金の減少によるものであります。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

#### 基本方針の内容

当社は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模買付行為(下記において定義されます。)に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様への判断に委ねられるべきものであると考えております。しかし、当社の経営にあたっては、自動化技術と流体制御技術等長年にわたるノウハウと豊富な経験、並びに国内外の顧客、取引先、従業員等のステークホルダーとの間に築かれた信頼関係が不可欠であり、これらに関する十分な情報なくしては、株主の皆様が将来実現することができ企業価値ひいては株主価値を適切に判断することはできないものと考えております。

#### 財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他基本方針の実現に資する取組み

当社は、創業以来、一貫して自動化技術・流体制御技術の研究開発に取組み、高品質・高効率の自動化を実現するとともに、省資源・省エネルギーを考慮した自動機械装置及び自動化機器を開発し、あらゆる産業界の自動化・ローコスト化に貢献してまいりました。その結果、自動機械商品においては、高い安全性と環境性能をもつ薬品自動包装システムは国内で80%のシェアを占めており、リチウムイオン電池製造システムや電子基板の三次元はんだ印刷検査機についても高いシェアを誇っております。また、機器商品においても、半導体製造に欠かせない薬液制御機器や、あらゆる産業に応用可能な流体制御機器についても国内でトップの地位を堅持しております。当社は、国内はもとより海外各地において幅広い販売ネットワークを構築しているほか、お客様との密接な関係を構築し、世界に通用する品質保証体制の構築と環境対応商品の開発を行い顧客満足度の向上に邁進しております。

また、企業の社会的責任を全うするため、環境保全活動の一層の推進、CSR基金による社会貢献、社員の自主活動の支援などによりステークホルダーとのコミュニケーションを深めるとともに、行動規準をはじめとする各種社内規程の整備を行うなど内部統制システムを充実させております。

平成25年4月には、「商品・販売・生産のGLOBAL化」を基本方針とした新中期経営計画『GLOBAL CKD 2015』(平成25年度～平成27年度)をスタートいたしました。急速に変化する市場環境の中で、成長市場と海外市場での売上を拡大することを狙い、新規事業の展開、新興国への販売網構築、海外工場の生産機能の強化など積極的な事業活動を展開することにより、企業価値の増大に努めてまいります。

#### 基本方針に照らして不適切な者によって会社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成25年6月21日開催の第93期定時株主総会の承認に基づき、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等(注)の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為(以下、かかる買付行為を「大規模買付行為」といいます。)を行う者(以下「大規模買付者」といいます。)に対する対応方針(以下「本方針」といいます。)を更新いたしました。

本方針の有効期限は、平成25年6月21日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであり、その概要は次のとおりであります。

(注)「株券等」とは、金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等を意味します。

## 〔本方針の概要〕

## ・大規模買付ルールの内容

当社が設定した大規模買付ルールとは、大規模買付者が 事前に当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供しなければならず、その後当社取締役会による一定の評価期間が経過した後はじめて大規模買付行為を開始することができる、というものであります。

具体的大規模買付ルールの内容は次のとおりであります。

## (1) 情報の提供

大規模買付者が大規模買付行為を行おうとする場合には、まず当社代表取締役宛に、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先及び提案する大規模買付行為の概要を明示し、大規模買付ルールに従う旨を表明した意向表明書をご提出いただきます。

当社は、かかる意向表明書受領後10営業日以内に、大規模買付者から当初提出いただくべき当社株主の皆様への判断及び当社取締役会としての意見形成のために必要かつ十分な情報（以下「本必要情報」といいます。）のリストを当該大規模買付者に交付します。本必要情報の具体的内容は大規模買付者の属性及び大規模買付行為の内容によって異なりますが、一般的な項目は以下の事項を含みます。

- (a) 大規模買付者及びそのグループの概要（大規模買付者の事業内容、当社の事業と同種の事業についての経験等に関する情報を含みます。）
- (b) 大規模買付行為の目的及び内容
- (c) 当社株式の取得対価の算定根拠及び取得資金の裏付け
- (d) 当社の経営に参画した後に想定している経営方針、事業計画、財務計画、資本政策、配当政策、資産活用策等（以下「買付後経営方針等」といいます。）

当初提供していただいた情報を精査した結果、それだけでは当社株主の皆様への判断又は当社取締役会としての意見形成のためには不十分と認められる場合には、当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、大規模買付者に対して追加的に情報提供を求めることがあります。

大規模買付者には、当社が最初に本必要情報のリストを交付した日から起算して60日以内に本必要情報の提供を完了していただきます（以下「必要情報提供期間」といいます。）。なお、本必要情報の具体的内容は、大規模買付者の属性及び大規模買付行為の内容によって異なりますので、当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、必要情報提供期間を最長30日間延長することができるものとしたします。

当社取締役会が追加的に本必要情報の提供を求めた場合に、大規模買付者から本必要情報の一部について提供が困難である旨の合理的な説明がある場合には、当社取締役会が要求する本必要情報がすべて揃わなくとも、本必要情報の提供が完了したと判断し、当社取締役会による評価・検討を開始することがあります。また、必要情報提供期間が満了した場合には、本必要情報が十分に揃わない場合であっても、その時点で当社取締役会は本必要情報の提供に係る大規模買付者とのやり取りを終了し、ただちに取締役会評価期間を開始するものとしたします。

大規模買付行為の提案があった事実及び当社取締役会に提供された本必要情報は、当社株主の皆様への判断のために必要かつ適切と認められる範囲において、適切と判断する時点で、その全部又は一部を開示いたします。また、大規模買付者が本必要情報の提供を完了した場合（大規模買付者から本必要情報の一部について提供が困難である旨の合理的な説明があり、当社取締役会が本必要情報の提供が完了したと判断する場合を含みます。）又は必要情報提供期間が満了した場合は、速やかにその旨を開示いたします。

## (2) 取締役会評価期間の確保

当社取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し本必要情報の提供を完了した後又は必要情報提供期間が満了した後、60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付けの場合）又は90日間（その他の大規模買付行為の場合）を取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間（以下「取締役会評価期間」といいます。）として与えられるべきものと考えております。従って、大規模買付行為は、取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるものとしたします。取締役会評価期間中、当社取締役会は外部の有識者等の助言を受けながら、提供された本必要情報を十分に評価・検討し、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、公表します。また、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会として当社株主の皆様に対し代替案を提示することもあります。

なお、当社取締役会が当初の取締役会評価期間の満了時までには当社取締役会としての意見の公表に至らない場合は、当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のために合理的に必要とされる範囲内（ただし、30日間を上限とします。）で、取締役会決議をもって取締役会評価期間を延長することができます。当社取締役会が取締役会評価期間の延長を決議した場合、当該決議された具体的期間及びその具体的期間が必要とされる理由を適用ある法令等及び金融商品取引所規則に従って直ちに株主の皆様に対して開示いたします。

・大規模買付行為がなされた場合の対応方針

(1) 大規模買付者が大規模買付ルールを順守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを順守した場合には、当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示したりすることにより、当社株主の皆様を説得するに留め、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は取りません。大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、当社株主の皆様において、当該買付提案及び当社が提示する当該買付提案に対する意見、代替案等をご考慮のうえ、ご判断いただくこととなります。もっとも、大規模買付ルールが順守されている場合であっても、当該大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主価値を著しく損なうと認められる場合には、当社取締役会は、例外的に対抗措置を発動することがあります。

また、当該大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主価値を著しく損なうか否か及び対抗措置を発動すべきか否かの検討及び判断については、その客観性及び合理性を担保するため、当社取締役会は、大規模買付者の提供する買付後経営方針等を含む本必要情報に基づいて、外部の有識者等の助言を得ながら独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、当該大規模買付者及び大規模買付行為の具体的内容（目的、方法、対象、取得対価の種類・金額等）や当該大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主価値に与える影響を検討し、取締役会決議をもって決定することといたします。

(2) 大規模買付者が大規模買付ルールを順守しない場合

大規模買付者により大規模買付ルールが順守されなかった場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主価値を守ることを目的として、対抗措置を発動し、大規模買付行為に対抗する場合があります。この大規模買付者により大規模買付ルールが順守されたか否か及び対抗措置を発動すべきか否かの検討及び判断については、当社取締役会は、外部の有識者等の助言を得ながら独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、取締役会決議をもって決定することといたします。当社取締役会は対抗措置の発動として株主への無償割当てにより新株予約権を発行するものいたします。

本方針の妥当性に関する取締役会の判断

大規模買付者が大規模買付ルールを順守した場合には、当社取締役会は上記のとおり原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は取りません。従いまして、大規模買付者の提案に応じるか否かは、当社株主の皆様において、大規模買付者から提供され当社取締役会により開示された本必要情報、当該大規模買付行為の提案及び当社取締役会が提示する当該大規模買付行為の提案に対する意見、代替案等をご考慮のうえ、ご判断いただくこととなるため、当社取締役会は本方針が上記の基本方針に沿うものであると考えております。

また、本方針は、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、現に当社の経営を担っている当社取締役会の意見を提供し、さらには、当社株主の皆様が代替案の提示を受ける機会を保証することを目的としています。これにより、当社株主の皆様は、十分な情報のもとで、大規模買付行為に応じるか否かについて適切な判断をすることが可能となり、そのことが当社の企業価値ひいては株主価値の保護につながるものと考えております。従いまして、本方針は、当社株主及び投資家の皆様が適切な投資判断を行うにあたっての前提として、当社株主及び投資家の皆様の利益に資するものであり、決して当社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、1,534百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	233,000,000
計	233,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数 (株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成27年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	68,909,449	68,909,449	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数100株
計	68,909,449	68,909,449	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年7月27日 (注)	519,900	68,909,449	-	11,016	-	11,797

(注) 平成27年5月12日開催の取締役会決議に基づく自己株式の消却による減少であります。

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5 NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11 - 1)	3,207	4.65
C K D持株会	愛知県小牧市応時二丁目250	3,087	4.48
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8 - 11	2,354	3.42
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11 - 3	1,955	2.84
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地七丁目18 - 24	1,914	2.78
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9	1,610	2.34
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCROO (常任代理人 香港上海銀行)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5 NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11 - 1)	1,599	2.32
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1 - 2	1,581	2.29
C K D協力企業投資会	愛知県小牧市応時二丁目250	1,541	2.24
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7 - 1)	1,469	2.13
計	-	20,321	29.49

(注) 上記のほか、当第2四半期会計期間末現在において保有する自己株式6,977千株(10.13%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,977,400	-	単元株式数100株
完全議決権株式 (その他)	普通株式 61,899,300	618,993	同上
単元未満株式	普通株式 32,749	-	一単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	68,909,449	-	-
総株主の議決権	-	618,993	-

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の割合 (%)
(自己保有株式) C K D株式会社	愛知県小牧市応時二丁目 250番地	6,977,400	-	6,977,400	10.13
計	-	6,977,400	-	6,977,400	10.13

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動日
取締役	執行役員・管理担当・ 海外子会社管理担当・ 財務部長・内部監査室長・ C K D企業年金基金理事長	取締役	執行役員・管理担当・ 海外子会社管理担当・ 財務部長・内部監査室長・ 安全保障輸出管理室長・ C K D企業年金基金理事長	徳田 重友	平成27年9月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	11,750	9,354
受取手形及び売掛金	20,577	18,345
営業未収入金	1,938	2,004
有価証券	3,499	5,000
商品及び製品	4,363	4,290
仕掛品	3,229	3,358
原材料及び貯蔵品	11,712	12,209
その他	3,468	3,545
貸倒引当金	33	80
流動資産合計	60,507	58,028
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	10,537	12,496
その他(純額)	14,313	14,430
有形固定資産合計	24,851	26,927
無形固定資産	817	734
投資その他の資産	9,842	9,367
固定資産合計	35,511	37,028
資産合計	96,018	95,057
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	11,924	10,484
短期借入金	1,921	1,737
未払法人税等	681	1,187
賞与引当金	138	2,046
その他の引当金	271	235
その他	8,232	6,530
流動負債合計	23,170	22,222
<b>固定負債</b>		
長期借入金	3,490	3,105
その他の引当金	-	83
退職給付に係る負債	206	215
その他	3,596	3,515
固定負債合計	7,292	6,918
負債合計	30,463	29,141
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	11,016	11,016
資本剰余金	12,737	12,372
利益剰余金	40,611	42,716
自己株式	4,557	4,893
株主資本合計	59,807	61,212
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	2,453	2,061
為替換算調整勘定	3,371	2,798
退職給付に係る調整累計額	77	156
その他の包括利益累計額合計	5,747	4,703
純資産合計	65,555	65,916
負債純資産合計	96,018	95,057

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	39,991	45,160
売上原価	28,040	30,883
売上総利益	11,951	14,277
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 8,517	<sup>1</sup> 9,965
営業利益	3,434	4,312
営業外収益		
受取利息	16	22
受取配当金	51	69
その他	129	121
営業外収益合計	197	213
営業外費用		
支払利息	22	26
売上割引	65	70
為替差損	16	169
その他	38	15
営業外費用合計	143	281
経常利益	3,488	4,243
特別利益		
固定資産売却益	7	123
補助金収入	-	66
特別利益合計	7	189
特別損失		
固定資産売却損	6	3
固定資産除却損	27	46
環境対策費	<sup>2</sup> 138	<sup>2</sup> 83
特別損失合計	171	133
税金等調整前四半期純利益	3,323	4,300
法人税、住民税及び事業税	822	1,180
法人税等調整額	277	194
法人税等合計	1,099	1,375
四半期純利益	2,223	2,924
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,223	2,924

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	2,223	2,924
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	340	392
為替換算調整勘定	494	573
退職給付に係る調整額	14	78
その他の包括利益合計	168	1,044
四半期包括利益	2,054	1,880
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,054	1,880
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,323	4,300
減価償却費	1,447	1,963
賞与引当金の増減額(は減少)	1,880	1,916
未払賞与の増減額(は減少)	1,738	1,804
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	448	226
売上債権の増減額(は増加)	735	1,595
たな卸資産の増減額(は増加)	1,524	721
仕入債務の増減額(は減少)	1,521	996
前受金の増減額(は減少)	470	68
その他	108	251
小計	5,776	5,843
利息及び配当金の受取額	66	95
利息の支払額	22	27
法人税等の支払額	2,528	664
法人税等の還付額	0	-
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,292</b>	<b>5,246</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の純増減額(は増加)	-	1,499
有形固定資産の取得による支出	2,970	3,730
無形固定資産の取得による支出	99	123
その他	776	39
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,293</b>	<b>2,315</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	231	125
長期借入金の返済による支出	380	385
自己株式の取得による支出	0	700
自己株式の売却による収入	62	-
配当金の支払額	623	810
その他	25	22
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,198</b>	<b>2,042</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	60	254
<b>現金及び現金同等物の増減額(は減少)</b>	<b>259</b>	<b>634</b>
現金及び現金同等物の期首残高	9,831	12,290
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>9,571</b>	<b>12,924</b>

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

従来、連結子会社のうち決算日が12月31日であった在外子会社（5社）については同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っていましたが、CKD THAI CORPORATION LTD.、CKD USA CORPORATION、M-CKD PRECISION SDN.BHD.については決算日を3月31日に変更し、喜開理（中国）有限公司、喜開理（上海）機器有限公司については連結決算日である3月31日に仮決算を行い連結する方法に変更しております。その結果、当第2四半期連結累計期間は平成27年1月1日から平成27年9月30日までの9か月間を連結しております。

なお、当該子会社の平成27年1月1日から平成27年3月31日までの売上高は3,019百万円、営業利益は149百万円、経常利益は141百万円、税金等調整前四半期純利益は130百万円であります。

また、セグメントに与える影響については、当該箇所に記載しております。

(会計方針の変更等)

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
投資その他の資産	29百万円	29百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
人件費	3,807百万円	4,540百万円
退職給付費用	136百万円	116百万円
荷造運搬費	493百万円	500百万円
研究開発費	1,413百万円	1,534百万円
貸倒引当金繰入額	-百万円	49百万円

2 環境対策費

前第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）

当第2四半期連結累計期間において、小牧工場の自動機械組立棟の建替え工事に伴い、土壌及び地下水の調査を実施した結果、一部区画から環境基準値を上回る汚染物質が検出され、浄化対策の必要性が判明いたしました。そのため、浄化対策の費用として、合理的な見積額を含めて環境対策費138百万円を特別損失に計上しております。

当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年9月30日）

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」によるPCB廃棄物の処理支出に備えるため、合理的に見積ることができる支出見込額を環境対策費83百万円として特別損失に計上しております。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	8,027百万円	9,354百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	456百万円	429百万円
取得日から3か月以内に償還期限の 到来する短期投資(有価証券)	2,000百万円	4,000百万円
現金及び現金同等物	9,571百万円	12,924百万円

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月8日 取締役会	普通株式	624	10	平成26年3月31日	平成26年6月2日	利益剰余金

(注)平成26年5月8日取締役会の決議に基づく配当金の総額には、C K D持株会信託口に対する配当金0百万円を含めております。

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月29日 取締役会	普通株式	686	11	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月12日 取締役会	普通株式	811	13	平成27年3月31日	平成27年6月3日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年10月30日 取締役会	普通株式	805	13	平成27年9月30日	平成27年12月7日	利益剰余金

## 3. 株主資本の著しい変動

平成27年5月12日開催の取締役会決議に基づき、当第2四半期連結累計期間において自己株式699百万円を取得し、平成27年7月27日に当該取得した自己株式の消却を実施しました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が335百万円増加し、資本剰余金が364百万円減少しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自動機械部門	機器部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,476	32,515	39,991	-	39,991
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	97	97	97	-
計	7,476	32,613	40,089	97	39,991
セグメント利益	770	3,965	4,735	1,301	3,434

(注) 1. セグメント利益の調整額 1,301百万円には、セグメント間取引消去15百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,316百万円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用及び長期的な基礎的研究費用並びにC K Dグローバルサービス株式会社に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自動機械部門	機器部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,646	37,514	45,160	-	45,160
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	38	38	38	-
計	7,646	37,553	45,199	38	45,160
セグメント利益	1,136	4,675	5,812	1,500	4,312

(注) 1. セグメント利益の調整額 1,500百万円には、セグメント間取引消去16百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,516百万円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用及び長期的な基礎的研究費用並びにC K Dグローバルサービス株式会社に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

連結子会社の事業年度等に関する事項の変更記載のとおり、従来、連結子会社のうち決算日が12月31日であった在外子会社(5社)については同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行ってまいりましたが、CKD THAI CORPORATION LTD.、CKD USA CORPORATION、M-CKD PRECISION SDN.BHD.については決算日を3月31日に変更し、喜開理(中国)有限公司、喜開理(上海)機器有限公司については連結決算日である3月31日に仮決算を行い連結する方法に変更しております。その結果、当第2四半期連結累計期間は平成27年1月1日から平成27年9月30日までの9か月間を連結しております。

なお、当該子会社の平成27年1月1日から平成27年3月31日までの売上高は機器部門で3,019百万円、セグメント利益は機器部門で149百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	35円61銭	47円07銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	2,223	2,924
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	2,223	2,924
普通株式の期中平均株式数(千株)	62,452	62,147

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 1株当たり四半期純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数は、CKD持株会信託口が保有する当社株式の数を含めて算定しております(前第2四半期連結累計期間37千株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成27年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

配当金の総額.....805百万円

1株当たりの金額.....13円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成27年12月7日

(注)平成27年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月9日

C K D株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渋谷 英 司 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 服 部 一 利 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているC K D株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、C K D株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。